

食欲がわく色で消費を促そう

本研究は、社会問題でもある食品ロスを減らすことを目標に色と感情の関係を活用して行いました。食品、またはパッケージを着色してわかったこととして、彩度の高い色のほうが食欲がわきやすく、着色した色と自分が食べたことのある食材を関連付けるといことです。つまり自らの固定観念で判断していることがわかりました。そのため、実際に販売するときには、商品をイメージできるような色を使うことが良いのではないかと結論に至りました。

キーワード:食品ロス 色と感情 彩度

I. はじめに

私達はテレビや新聞で多くの食べ物が売れ残り、廃棄されているという記事を見つけました。現在、世界中で飢餓が問題となっており、食料を得るのが難しい人々が多くいる中、日本は食料に恵まれているにもかかわらず多くの人が食料を無駄にしています。日本が廃棄している食料を集めると、飢餓の国のほとんど全てに送ることができるという事実もあります。そのため私達は今ある食料をもっと大切にすべきだと考えました。特にスーパーなどで売れ残っている惣菜などの廃棄量がとても多く、気になったのでどうしたら多くの人に買ってもらえるのかを考えました。そこで私達は色に着目し、色が人に与える影響(※図1)を調べることでどんな商品が魅力的に見え、多く買ってもらうことができるのかを考えました。私達はまず、色とそれが人に与える影響を調べ、どんな色を組み合わせれば良いかを考えました。もともとは食材に色をつける予定でしたが、色素を使う手間や体に害を与える可能性を考えた結果、パッケージに色を付けて商品を作ろうと考えました。この探求をきっかけに日本国内の売れ残っている惣菜が少しでも減ることを目標に活動をしました。

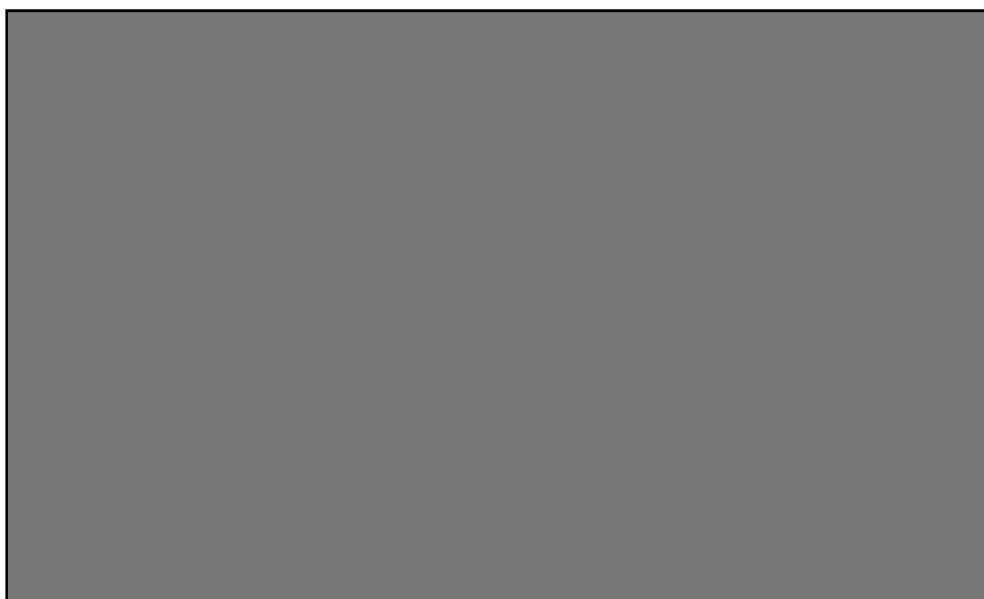




図 I

II. 研究方法

① コメの着色について

・米に食紅を使って、それぞれ赤・青・黄・緑に着色 ※図2

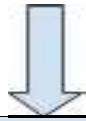
・被験者に米を食べてもらう

・美味しそう 美味しくなさそうと思った色をアンケート方式で答えてもらう

② パッケージのデザインについて

・カップヌードルの容器に折り紙を巻き付ける

黄色 青 赤 灰色 緑の折り紙で実験する ※図3



どの色が良かったかアンケートを取る



図2



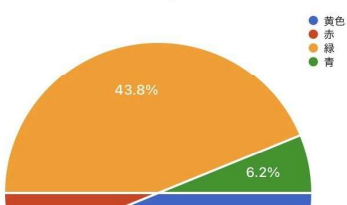
図3

Ⅲ.探求内容

①について・・・三高の生徒1から3年生 計56人に、(最も美味しそうに見えた色)、(2番目に美味しそうに見えた色)、(3番目に美味しそうに見えた色)、(一番美味しそうなさそうに見えた色)の4つの項目についてのアンケートを取った。※図4 図5 図6 図7

②について・・・三高の生徒1から3年生 計40人に、(最も美味しそうに見えた色)、(2番目に美味しそうに見えた色)、(3番目に美味しそうに見えた色)、(4番目に美味しそうなさそうに見えた色)、(一番美味しそうなさそうに見えた色)の5つの項目についてのアンケートを取った。※結果2

最も美味しそうに見えた色



黄色 25人
 緑色 25人
 赤色 3人
 青色 3人

図4

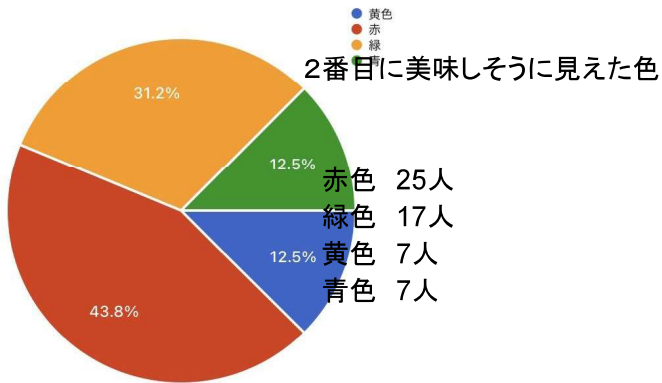


図5

3番目に美味しそうに見えた色

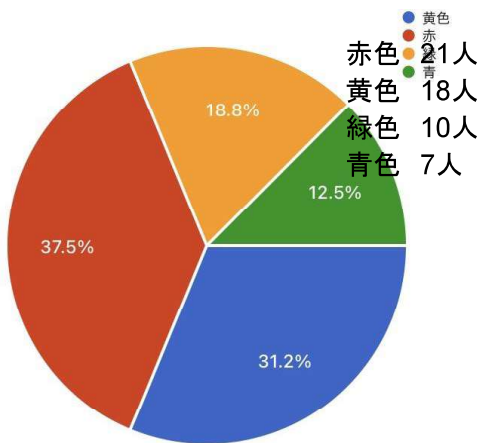


図6

最も美味しくなさそうに見えた色

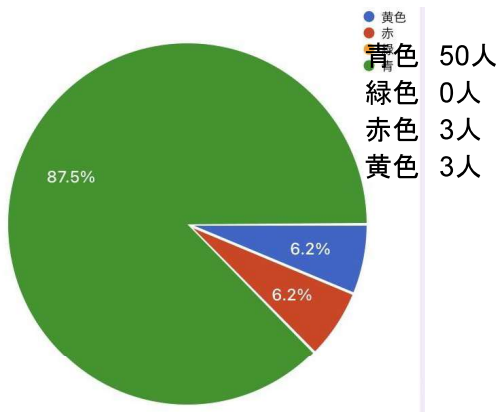


図7

(結果2)

赤色 30人
 黄色 10人
 緑色 0人
 青色 0人
 灰色 0人

IV. 考察

1. 31班での考察

アンケートを行い、美味しそうに見えた色の中で上位である色を選んだ人にその理由を聞いてみると、既存の食べ物を連想することができるため美味しそうに感じたと答えていた。一方で美味しなさそうに見えた色の中で上位である色を選んだ人にその理由を聞いてみると、連想できる食べ物があまりなく食欲がわかかなかったと答えていた。つまり他の食べ物を連想して美味しさを決めているということである。これは人の持つ固定観念によって美味しいか、美味しくないのかが決められているのではないかと考えた。そのため買ってもらいたい食材をイメージした色を使ってデザインをすればより人々が食べたいと思い、買ってくれるのではないかと考えた。

2. 個人の考察

アンケート結果から、多くの人々が一度は食べたことのある食材を連想して美味しいかそうでないかを判断しているのだと思った。さらに一番美味しくなと答えた色で青がとて多かつた理由として、31班の考察では食材と連想しにくかつたと考えているが、私自身は青を食材以外のものと関連付けてしまうことで、美味しくないと思ってしまうのではないかと考えた。一番美味しくない色として青色を選んだ人にその理由を聞いてみるとカビをイメージしてしまったと答えた人が一定数おり、これは青い食べ物をイメージすることができず、他のものをイメージしてしまったことによつて起こつたのではないかと考えた。

V.まとめ

私達の班では、食品ロスを減らすことを目標にパッケージの色を工夫することで少しでも改善できるのではないかと思います、探究活動を続けてきました。色が人に与える影響を調べる中で、私達自身全く知らなかった色の影響力を知ることができ、これから様々なことに活かしていけるのではないかと思います。初めて発表をしたときには実際に食品に着色することに対しての疑問や批判が相次いで起こり、一時期はテーマを変えようと思った時もありましたが、班員で話し合い着色する対象を食べ物ではなくパッケージにすることにしました。修学旅行で訪れたカップヌードルミュージアムの方からは貴重なお話をたくさん聞くことができ感謝の気持ちでいっぱいです。さらにいったことのない場所に行けたり新しい知識をたくさん得ることができ貴重な体験をすることができました。この探究活動を通してプレゼンの方法やスライドの作り方など将来役に立つことをたくさん学んだのでこれから活かしていきたいです。

参考文献

伝つくラボ研究員 2018年1月17日 色で感情が動く!?色が持つ心理効果と活用方法
KIMOTOSEIBIDO

稲浪正充 栗山智子 安倍美穂子 平成6年12月 色彩と感情について 島根大学教育学部紀要(人文・社会科学)